ポータブルMDレコーダー

DMC-F5R

取扱説明書

お買いあげいただきましてありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
本機は日本国内専用モデルですので本機のACアダプターを外国で使用することはできません。

Precaution for use

This unit is designed for domestic use only, and it is very dangerous to use the attached AC adaptor abrord. Never use it out of Japan.

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

電源について

本機の外部電源は、付属のACアダプター、または別売の専用カーバッテリーアダプター以外は使用しないでください。

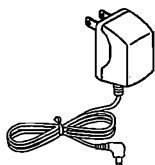
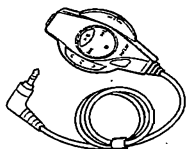
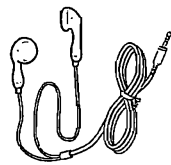
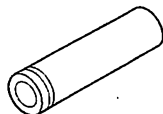
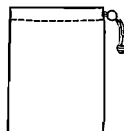
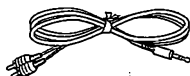
TINSJ1443AFZZ
B60-2816-18
97/3 2 1 96/12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
C9602.25MNS.YO

本機の特徴

- **多彩な録音編集機能**
  曲を分けたり、つないだり、移動したりなど、MDならではの多彩な編集ができます。
- **文字情報の入力が可能**
  録音用ディスクには、ディスク名や曲名の文字がカタカナや英数字で入力できます。（100文字スクロール）
- **約10秒間の音とびガードメモリー**
  約10秒間（電池で使用する場合は約10秒～約5秒）の音とびガードメモリー採用により、カーユース、アウトドアーユースに心強い耐振設計です。
- **最大148分の録音（モノラル録音時）が可能**
  手のひらサイズの小さなディスクにモノラル録音で最大で148分、ステレオでも74分の録音ができます。
- **シンクロ録音機能搭載**
  CDの録音で威力を発揮するシンクロ録音、CDと同時にスタート出来ます。

付属品とそのなまえ

- 次の付属品がそろっていることを確認してください。

ACアダプター

リモコン

ヘッドホン

充電池

キャリングケース

接続コード

＊この製品は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品です。

もくじ

安全に正しくお使いいただくために

このページには、安全にお使いいただくためのいろいろな注意事項を説明しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について
このページでは、本機を安全に正しくお使いいただき、
事故を未然に防ぐためにいろいろな絵表示をしています。

行為の強制または指示を示します。

使用上の注意を示します。

行為の禁止を示します。

安全上のご注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

事故防止のために

- 自転車に乗りながら、または自動車、オートバイなどの運転中は、絶対にヘッドホンを使用しないでください。交通事故の原因となります。
- 歩行中にこの機器を聴く場合、特に踏切や交差点などでは、周囲の交通に十分注意してください。交通事故などの原因となります。

ACアダプター(カーバッテリーアダプター)や充電器の取扱いについて

- ACアダプター(カーバッテリーアダプター)または充電器は付属品または当社指定品をお使いください。それ以外のものを使用すると火災の原因となることがあります。
- ACアダプター(カーバッテリーアダプター)や充電器に表示された電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機に付属のACアダプターまたは充電器は日本国内専用です。外国で使用することはできません。
- 濡れた手でACアダプター(カーバッテリーアダプター)または充電器を抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- ACアダプター(カーバッテリーアダプター)のコードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
  コードが破損して、火災、感電の原因となります。
- ACアダプター(カーバッテリーアダプター)のコードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店またはケンウッドの営業所に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災、感電の原因となります。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

ケースを絶対に開けないでください

- 本体やACアダプター（カーバッテリーアダプター）、充電器のケースは、はずさないでください。
  火災や感電の原因になります。
- 点検、修理は販売店またはケンウッド営業所へご依頼ください。

電池の保存

- 電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

内部に物や水などを入れない

- 本体やACアダプター（カーバッテリーアダプター）、充電器の開口部から内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災や感電の原因となります。特にお子様のいる家庭ではご注意ください。

- 万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず本体の電源を切り、（ACアダプター、充電器の場合はコンセントからはずす）電池を本体からはずして販売店またはケンウッドの営業所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水などの入った容器を近くに置かない

- 本体やACアダプター（カーバッテリーアダプター）、充電器の近くに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となります。

落下した機器は使わない

- 落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、まず本体の電源を切り、（ACアダプター、充電器の場合はコンセントからはずす）電池を本体からはずして販売店またはケンウッドの営業所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

異常が起きたら

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ずACアダプター、充電器はコンセントから抜き（カーバッテリーアダプターはシガレットライターから抜く）、電池を本体からはずしてください。煙が出なくなるのを確認してから販売店またはケンウッドの営業所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですのでおやめください。

布や布団で覆わない

- ACアダプター、充電器を、布や布団でおおったり、包んだりしないでください。
- 熱がこもり、ケースの変形や、火災の原因になることがあります。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池（充電池、乾電池）の取扱いについて

電池は誤った使いかたをすると、感電、破裂、発火の危険があります。また、乾電池は液もれをして機器を腐食させたり、手や衣類などを汚す原因にもなります。つぎのことを必ず守ってください。

- 電池や電池ケースは、金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアピン等と一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス極とマイナス極のショートにより、電池の破裂や液もれが発生し、火災やけがの原因となることがあります。

- 電池を加熱、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂や液もれが発生し、火災やけがの原因になることがあります

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示（プラス“＋”とマイナス“－”の向き）に注意し、表示通りに入れてください。
  極性を間違えると、電池の破裂や液もれが発生し、火災、けが、または周囲を汚す原因になることがあります。

- 乾電池は、充電しないでください。
  電池の破裂、液漏れにより、火災や、けがの原因になります。

- 指定以外の電池を使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
  電池の破裂や液もれが発生し、火災、けが、または周囲を汚す原因になることがあります。

長時間ご使用にならないときは

- 旅行などで長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターや充電器をコンセントから抜き、電池をはずしておいてください。

お手入れのときは

- お手入れの際は、安全のため、ACアダプターや充電器をコンセントから抜いてから行ってください。
  感電の原因となることがあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

置場所について

- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたりしてけがの原因となることがあります。
- 風呂場など湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

お子様にご注意

- お子様が機器に乗ったりしないように、ご注意ください。機器がこわれて、けがの原因になることがあります
- お子様がディスクの挿入口に手を入れないように、ご注意ください。けがの原因になることがあります。

音量に気をつけて

- 電源を入れる前に、音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えてることがあります。

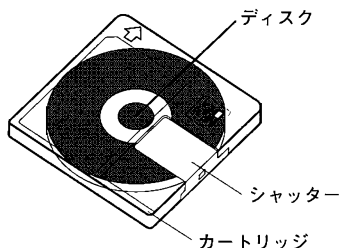
ステレオ音のエチケット

- 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、となり近所への配慮を十分にいたしましょう。
- 特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに快い生活環境を守りましょう。

MDについて

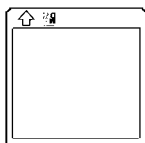
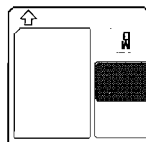
はじめにMDについて基本的なことを覚えておきましょう、操作の理解に役立ちます。

はじめに

MDとは

- **小さなディスク**
  直径64mmの小さなディスクを68mm×72mmの大きさのカートリッジにおさめたもので、ホコリやキズがつきにくく、取り扱いの簡単なディスクです。
- **デジタル録音、再生**
  録音、再生が、CDと同様なデジタル方式でCDに迫る高音質です。
- **ステレオで最大74分の録音、再生**
  録音、再生ともモノラルだと最大148分、ステレオでも74分まで録音ができます。

MDの種類

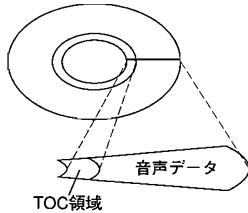
MDには再生専用のものと、録音/再生のできる2種類のタイプがあります。

再生専用MD	録音用MD
このディスクは録音できません。 • 市販の音楽ソフトなどは、再生専用のディスクを使用します。 • CDと同じ光ピックアップで再生するようになっています。	 • 録音ができる「生ディスク」でレーザー光と磁気を使って記録します。 また、デジタル録音のためくり返し録音しても音質が劣化することはありません。

MDの新しい技術

音声圧縮技術

ATRAC：(Adaptive TRansform Acoustic Coding)について

MDは、従来のCDの約半分の直径でありながらCDとほぼ同じ時間記録することができます。これは、聴覚心理学に基づいた音声圧縮技術(ATRAC)によるものです。この技術によれば音楽データを約1/5にカットしても聴感上の音質が損なわれることはありません。

高速選曲(TOCについて)

MDでは、CDと同じように高速で目的の曲の頭出しができます。これは[TOC]と呼ばれる領域で曲番や曲名を管理しているためで、その情報をもとに瞬時に曲を呼び出すことができます。
TOCは、本の目次のような役割をします。

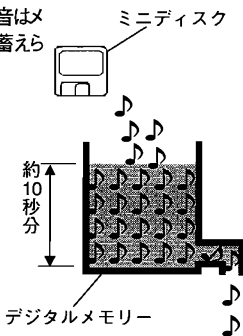
TOC : トック(Table Of Contents)

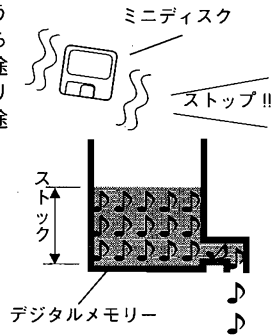
音とびガードメモリー

本機では再生中は常にメモリーに一定時間の信号を蓄えています。このため、外部からの衝撃で、光ピックアップからの信号が途切れても、音楽が途切れることなく再生することができます。
ACアダプターで使用するときは、常に約10秒間信号を蓄積しています。
電池で使用するときは、電池の消耗を少なくするかめ、通常5秒から10秒の間、信号を蓄積しています。

通常再生時

- 再生中、音はメモリーに蓄えられます。

ミニディスク
約10秒分
デジタルメモリー

振動があったとき

- 振動や衝撃をうけてディスクからの読み出しが途切れても、メモリーからの音は途切れません。

■電池で使用するときも常に約10秒の蓄積に設定することができます。

移動中の衝撃に対して音が途切れることが少なくなります。

- このとき電池の使用時間は短くなります。

停止中2秒以上押す

MODE

押すごとに次のように切り換わります。

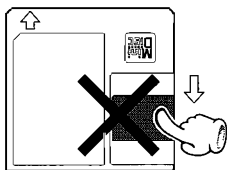
→ ①P save OFF : パワーセーブオフ
(約10秒の情報蓄積)

②AUTO P save : オートパワーセーブ
(電池節約モード)

MDの取り扱いについて

- MDはカートリッジに入っているため、ゴミや指紋を気にしないで手軽に取り扱うことができます。ただし、カートリッジの汚れやそりなどは誤動作の原因となります。いつまでも美しい音を楽しむため、次のことにご注意ください。

MDに直接触れないで

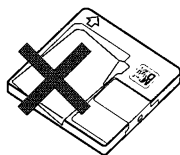
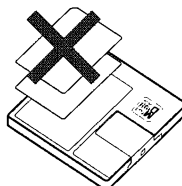
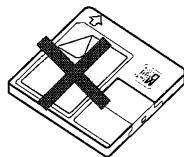
- シャッターを手で開けて、MDに直接触れないでください。無理に開けるとこわれます。

置場所について

- 直射日光が当たる所や、自動車の中などの、温度の高いところや、湿度の高いところには置かないでください。
- 海辺など、カートリッジの中に砂やほこりが入りやすい場所に放置しないでください。

お手入れのしかた

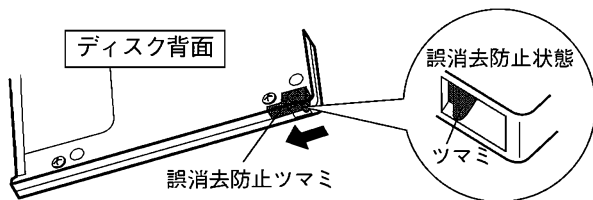
- 定期的にカートリッジについたホコリやゴミを乾いた布でふき取ってください。

ラベルを貼るときのお願い

- MDにラベルを貼り付けるときは、次のことを守って正しく貼ってください。
- 正しくラベルを貼り付けないと、ディスクが内部につまって取り出せなくなることがあります。

ラベルは指定の位置に正しく貼ってください。

ラベルを重ねて貼らないでください。

ラベルが浮き上がったり、めくれたりしないようにしてください。

- ラベルがうまく貼れなかったときは、ていねいに剥がして貼り直してください。

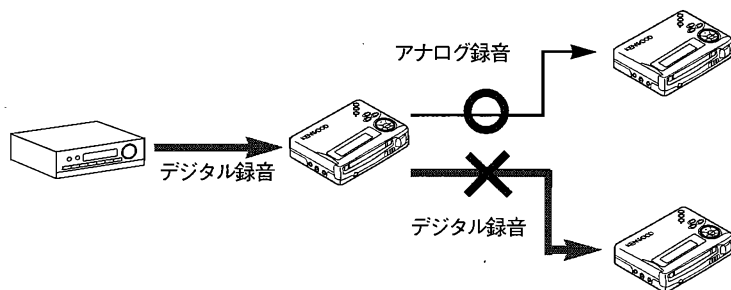
誤消去防止つまみについて

- 録音した内容を誤って消さないためには、ディスクの誤消去防止つまみを矢印の側に開いた状態にしておきます。再び録音する場合はつまみを元の状態に戻します。

デジタル録音のときの制約について

サンプリング周波数について

- サンプリング周波数とは、アナログ信号をデジタル信号に変換するときの分割周波数のことで、音楽用CDなどは44.1kHzを使用しています。
- 本機もサンプリング周波数が44.1kHzのデジタル録音ができます。

デジタル録音回数の制約（SCMS）について

- SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）とは、著作権保護のため、各種のデジタルオーディオ機器の間でデジタル録音できるのは、一世代だけに制限した規定です。
- SCMSの規定により、デジタルのまま録音した音声信号をもとに、再度デジタル録音することはできません。

著作権について

・あなたが録音、録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
・この商品（デジタル録音機器）には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

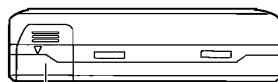
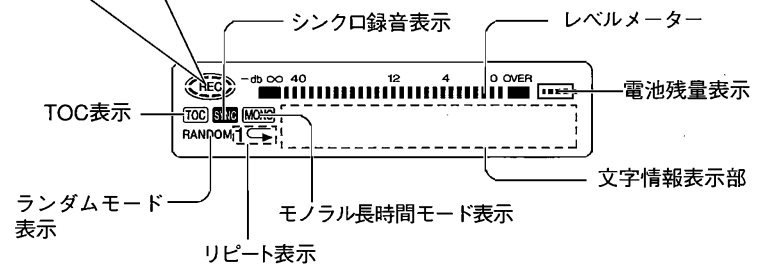
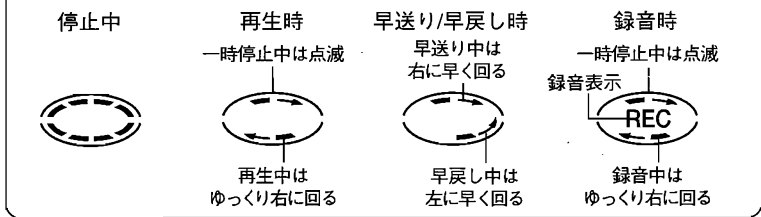
なお、私的録音補償金に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

社団法人　私的録音補償金管理協会
東京都港区西新橋１丁目４番５号
徳山曹達本館ビル
電話 (03)3506-8407
FAX (03)3506-8408

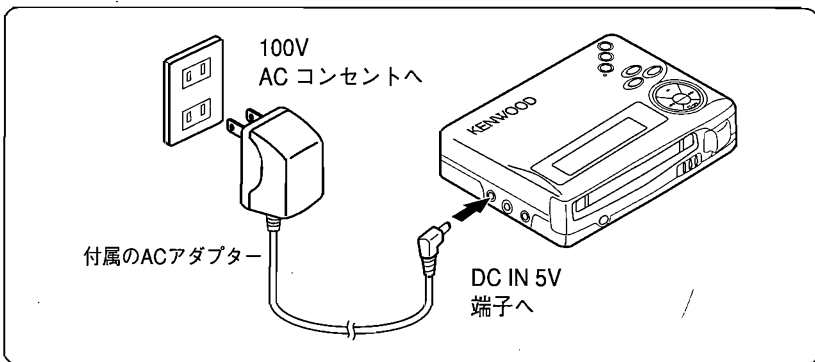
各部のなまえ

本 体

左側面

背 面

液晶表示部

リモコン

本体と同じマークのあるリモコンキーは、本体と同じ働きをします。

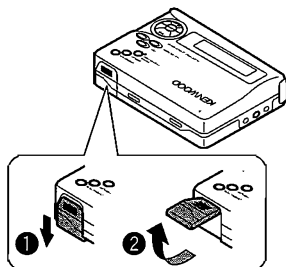
電源の準備

ACアダプターで使うには

充電池で使うには

- はじめは、充電池が完全に充電されていませんので、次の手順で充電してからお使いください。
- 本体の電源 **OFF** の状態で充電してください。（本体を操作しているときは充電されません）

1 充電池ぶたを開ける。

2 充電池をいれ、ふたを閉める。

⊕側を奥にして入れる。

3 付属のACアダプターをつなぐ。

上の「ACアダプターで使うには」の項目を参照してACアダプターを接続してください。

- **充電が始まるまで、数秒から2分程度かかります。**

- 充電時間の目安はつぎのとおりです。

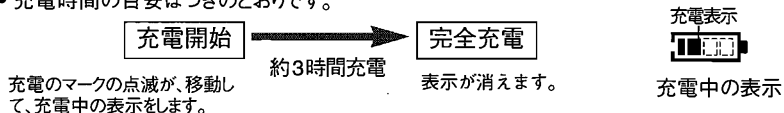
充電開始 → 完全充電

約3時間充電

充電のマークの点滅が、移動して、充電中の表示をします。

表示が消えます。

充電表示

充電中の表示

充電池の使用時間について

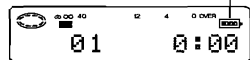
- **充電が完了したあとは、次のとおり連続使用できます。**
  連続再生：約4.5時間（完全充電時、音量レベル"VOL 20"時）
  連続録音：約3.5時間（完全充電、アナログ入力で、音量"VOL 0"時）
  - 周囲温度20°Cで充電/連続使用したときの標準値です。使用環境、温度によって使用時間は異なります。

電池残量や充電の状態を見るには

動作中は、電池残量表示（ ）がでますので目安にしてください。

- 電池の残量が少なくなると、目盛りが1つずつ消えていきます。
  残りわずかになると表示全体が点滅します。このときは、充電しなおしてください。
  また完全に消耗すると、表示部に
  "BATT EMPTY"（バッテリーエンプティー）が表示され、電源が自動的に切れます。
- ACアダプターで使用しているときは、電池残量にかかわらず、フル充電の表示になります。

電池残量表示

01 0:00

充電完了時

充電必要時

この時、録音や編集を始めることはできません。

充電池使用上のご注意

- 充電池にはリチウムイオン充電池を使用しております。この電池の特性上、充電池を使用しなくても最低3ヶ月に1回は充電してください。
- あまり使っていない充電池を充電するときは、充電池を入れたあと、数秒間MDを再生し、本体の電源を切って充電を始めてください。
- 充電池は約300回充電することができます。
- 専用の充電池以外のものは使わないでください。故障の原因となります。
- 充電しても使用時間が半分位になったときは、充電池を新しいものと交換してください。（別売品NB-L5をご使用ください）
- 充電が完了したあと、ACアダプターを接続しておいても差しつかえありませんが長い間使用しないときは外しておいてください。
- 充電するとき、または充電池を使用するときは、周囲の温度が10℃～30℃位のところで使用してください。
- 本機は電源OFFの時でも、わずかに電流が流れます。長い間使用しないときは、充電池を外しておいてください。
- 端子は定期的に綿棒で乾拭きしてください。このとき水や、アルコール類は絶対に使わないでください。

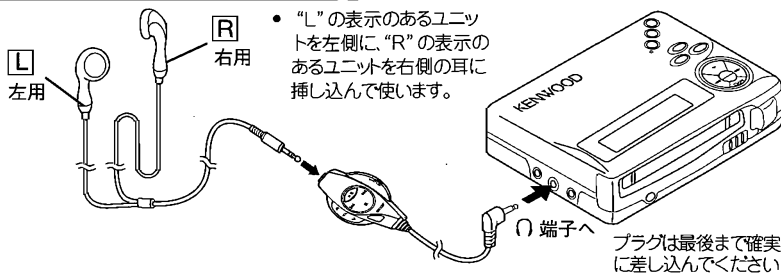
充電後や使用後に、充電池が暖かくなることがありますが異常ではありません。

再生のしかた（基本編）

再生の準備をしましょう

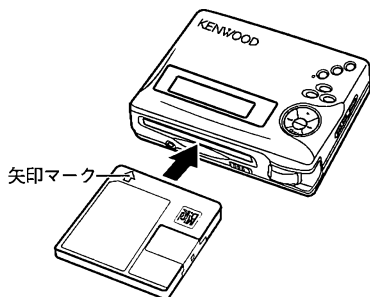
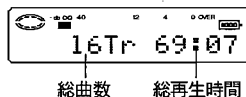
1 電源をつなぐ

ACアダプターをつなぐか、または電池をセットします。 → 14

2 リモコン、ヘッドホンを接続する

• "L"の表示のあるユニットを左側に、"R"の表示のあるユニットを右側の耳に挿し込んで使います。

プラグは最後まで確実に差し込んでください

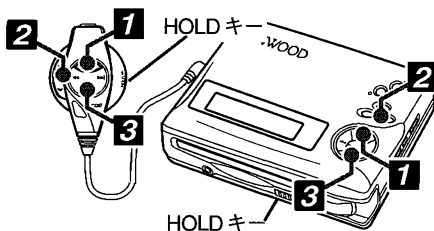
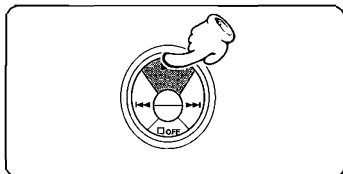
• 別売のミニプラグ付きステレオヘッドホンもご使用になれます。
ステレオセットやミニコンにつないで聞くことも出来ます。 → 22

3 録音済みMDを入れる

• 電源が自動的に入り、MDの情報を表示します。（約30秒間つぎの操作をしないと自動的に電源が切れます。）

• 文字情報／英語 マークがついている再生専用MD（市販の音楽ソフト）などは文字情報（曲名など）を表示します。

MDを取り出すときは

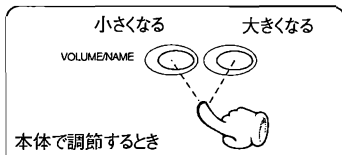
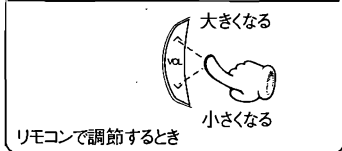
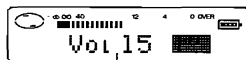
停止中にEJECTレバーを矢印方向に動かします。

再生をするには

HOLD(ホールド)キーについて
- 本体と、リモコン、それぞれにHOLDキーが付いています。キーを操作するときは、HOLDスイッチを解除してから操作してください。ホールド状態の場合、キーの操作をしても動作しません。(54ページ)

1 再生を始める

- 電源が入り、1曲目から再生が始まります。

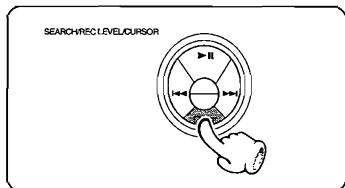
再生中の曲番　再生経過時間

- 再生中に ►/II キーを押すと一時停止します。
もう一度押すと、止めたところから再生が始まります。
- 最後の曲が終わると、停止します。

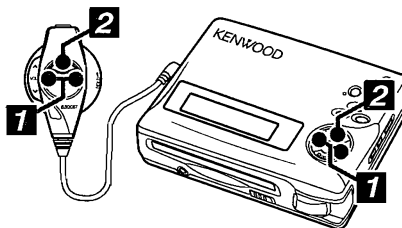
2 音量を調節する

音量表示(0～30)

- **音質を変えて楽しむこともできます。** → 22

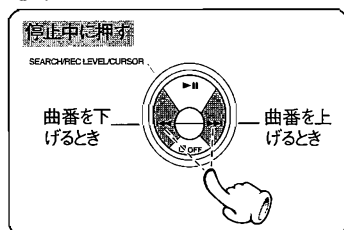
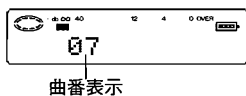
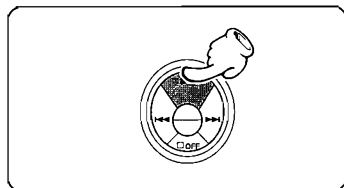
一度調節した音量はつぎに調整するまでは、電源を切っても記憶しています。

3 再生を止める/電源を切る

再生中に■キーを押すと ⇨停止します。
停止中に■キーを押すと ⇨電源が切れます。

停止後そのままにしておくと約2分後に電源が切れます。
再び再生をすると、止めたところから再生が始まります。(MDを取り出したときは1曲目から再生します。)

再生のしかた（応用編）

聞きたい曲から再生を始める

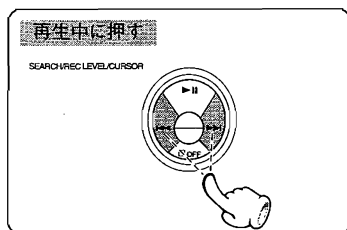
停止しているときに、聞きたい曲の頭出しをして再生することができます。

1 曲を選ぶ

- 1回押すごとに曲番が変わります。
- 押したままにすると、連続して曲番が変わります。

2 再生を始める

- 選んだ曲の頭から再生します。

- 1曲目を選んでいるときに I◀◀ ボタンを押すと、最後の曲に変わります。
- 最後の曲を選んでいるときに ▶▶I ボタンを押すと、1曲目に変わります。

曲の途中で飛び越して聞く(スキップ)

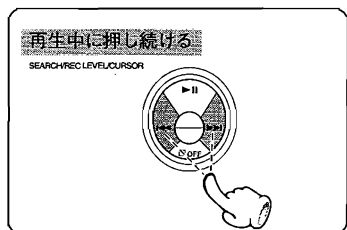
再生中に、聞いている曲を頭から聞き直したり、次の曲から聞くことができます。

1 曲を選ぶ

- ►►I キーを1回押すと、次の曲の頭から再生します。
- 押すごとに先の曲の頭に移動します。

- I◄◄ キーを1回押すと、今再生している曲の頭から再生します。
- 押すごとに手前の曲の頭に移動します。

聞きたいところを探して聞く(サーチ)

- 音を聞きながら早送りや早戻しをすることができます。

1 曲を探す

早送りするとき ⇨再生中に ►►I ボタンを押し続けます。

早戻しするとき ⇨再生中に I◄◄ ボタンを押し続けます。

- 指をはなすとふつうの再生に戻ります。

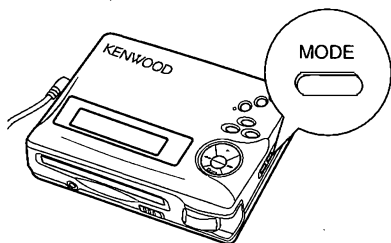
■ さらに早く探したいときは

- 一時停止しているときに早送り／早戻しの操作をすると、再生中に操作したときよりも早く探せます。
- このとき、音はでません。時間表示を目安にしてください。
- 指をはなした所で一時停止状態になります。

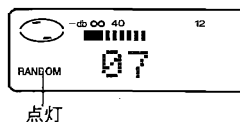
- 早送りの状態で最後の曲の終わりまでくると、一時停止状態になります。
- 早戻しで1曲目の頭までくると、再生を始めます。
- 録音の内容によっては、早聞き再生中に音がとぎれることがあります。
- 全曲リピート再生(20ページ)状態にしておくと、最後の曲から1曲目への早送り、または1曲目から最後の曲への早戻しができます。

曲を順不同で聞いたり、繰り返し再生するには

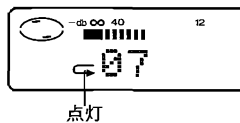
MODEキーを押すことにより、曲を順不同に再生したり、全曲を繰り返し再生したり、1曲だけ繰り返し再生したりすることができます。

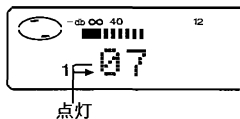
停止中、または再生中にMODEキーを押すと再生状態が下のように切り換わります。

①ランダム再生 ………… RANDOM
②全曲リピート再生……
③1曲リピート再生…… 1
④通常の再生に戻る……表示なし

■ランダム再生:

- 曲を録音順ではなく順不同(ランダム)にして聞くことができます。
- 聞いている曲の再生が終わると、数秒後に次の曲をランダムに選んで再生します。
- 今聞いている曲を含めた全曲をランダムに1回再生し、自動的に停止します。

RANDOM 07
点灯

■全曲リピート再生:

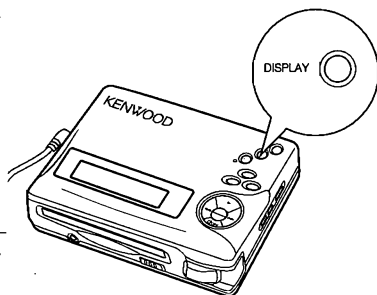
- ディスクの全曲を繰り返し再生します。

■1曲リピート再生:

- 選んだ1曲だけを繰り返し再生します。

■ランダム、リピート再生を解除するとき:

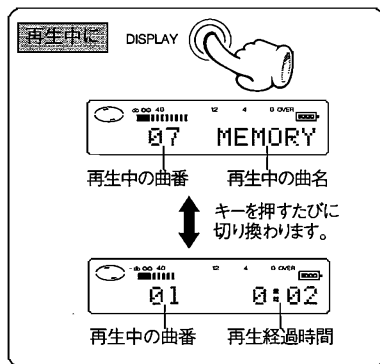
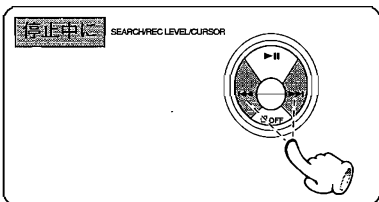
- MODEキーを繰り返し押してRANDOM、、1 の表示を消します。

- ランダム再生中は、前後の曲にまたがった早送り、早戻し再生はできません。
- リピート再生中に停止したり、電源を切ったあと、再度再生を始めると、停止した位置から再びリピート再生になります。
- ディスクを一度取り出した後は、1曲目から通常の再生になります。
- TOC 表示(25ページ)がでているときは、リピート再生はできません。

曲名やディスク名を表示する

MDのディスク名や、聞いている曲の曲名などが表示できます。
- 停止中に操作するとディスク名が表示できます。
- 再生中に操作すると、再生中の曲名が表示できます。

ご注意 曲名やディスク名をつけていないときは、表示できません。

ディスク名を表示する

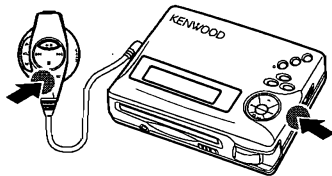
曲名を表示する

曲名を順に表示するには

- 停止中に I◀◀ キーを押すと、押すたびに前の曲名を表示します。
- 停止中に ▶▶I キーを押すと、押すたびに次の曲名を表示します。

文字が左に流れているときにDISPLAYキーを押すと、名前の最初の部分を表示します。この状態で再度DISPLAYキーを押すと、時間表示になります。

音質を変えて楽しむとき

低音を4段階にわたって変えて楽しむことができます。

● キーを押すごとに表示が下のように切替わります。

①BASS 1 . . .	低音を少し強調
②BASS 2 . . .	低音をより強調
③BASS 3 . . .	低音をさらに強調
④BASS OFF. .	低音増強の解除

● 低音を強調しているときに音量を上げすぎると、音がひずむことがあります。このときは低音のレベルを下げるか、音量レベルを下げてください。
● 音量レベルを " VOL 23 " 以上に設定しているときは、ひずみを少なくするために低音の強調レベルが自動的に調整されます。
● 録音中は、低音調整が解除の状態になっています。

ステレオなどに接続するとき

本機を他のステレオにつないでスピーカーで聞いたり、大型のヘッドホンを接続したりすることができます。

ライン入力（AUX IN）のある機器

AUX IN

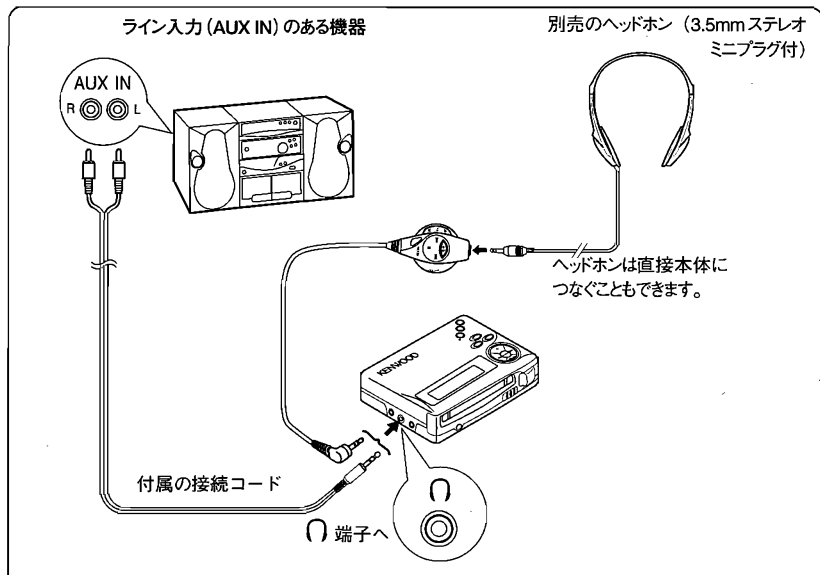
R L

別売のヘッドホン（3.5mmステレオミニプラグ付）

ヘッドホンは直接本体につなぐこともできます。

KENWOOD

付属の接続コード

∩ 端子へ

● 各プラグは確実に差し込んでください。
● ステレオやラジカセなどで聞くときは、本機の音量は“VOL 30”にして、ステレオの音量ボリュームで調整してください。

録音用接続の種類について

- このポータブルMDレコーダー にはCDプレヤーなどから光デジタル 接続で録音する方法とアナログ接続で録音する方法が選べます。
- お手持ちの機器の出力端子の種類などによってどちらかを選んで録音してください。

光デジタル接続による録音

- 光デジタル接続による録音ではデジタル信号のまま転送するため、高音質の録音ができます。
  録音レベルは、もとの信号と同じレベルになります。

接続できる機器

右の①か②の出力端子のあるCDプレヤーなど。

OPTICAL OUT

(光出力)
①

OPTICAL OUT

(光出力)
②

必要な接続コード

片端がDMC-F5Rの端子形状②に適合したもので、片端は、接続する機器の出力端子に適合する①又は②の形状のもの。

別売品 : 片端①-片端②の形状のもの--- OPC-300
両端とも②の形状のもの--------OPC-500

こんな時はデジタル入力で録音できません

- サンプリング周波数がMDの周波数(44.1kHz)と異なる機器から録音しようとしたとき。(衛星放送チューナーや、DATなど)
- デジタル録音したMDを、さらにデジタル入力でダビングしようとしたとき。(11ページ参照)

アナログ接続による録音

- 付属の接続コードを使って、一般のCDプレヤーやアンプなどから録音できます。(マイクロホンで録音するときもアナログ入力になります。)

接続できる機器

右の図の出力端子(RCAピン)のあるオーディオ機器

REC OUT

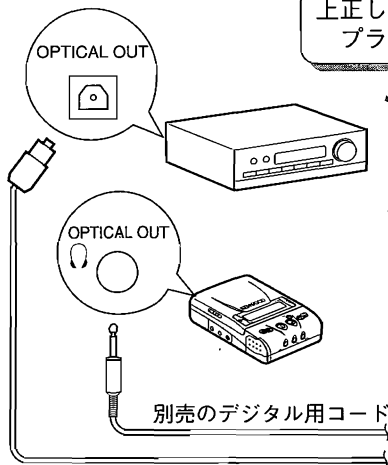
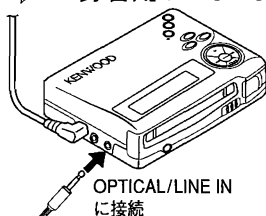
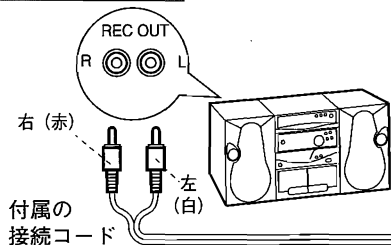
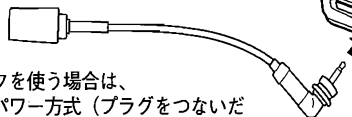
(LINE OUT)

必要な接続コード

付属の接続コード

- 機器によっては上の出力端子とことなる端子の場合があります。その場合は市販の接続コードをご使用ください。

録音をするとき(基本編)

接続をする

録音を始める前に

録音方法について

本機の録音方法には、下の２種類の方法があります。
録音する対象によって使い分けをすると便利です。

マニュアル録音

自分でタイミングを合わせて、録音開始/終了の操作を行う方法です。

シンクロ録音

接続したCDの再生音に連動して自動的に録音開始/一時停止する方法です。（CDからの録音専用です。）

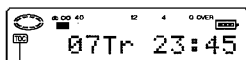
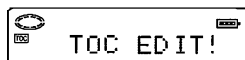
録音の目次（TOC（トック））の記録について

TOCとは、MDに記録されている曲番や曲名の情報を記録してある部分で、本の目次に当たるものです。（9ページ参照）
MDではTOCが正しく記録されていないと、正常に再生することが出来ません。

■TOCはどうやって記録するの？

⇨自動的に記録されます。

■TOCはいつ記録されるの？

⇨録音や編集を終わって電源が切れる前に、記録されます。

TOC 表示

録音や、編集をすると TOC 表示がでます。これは記録内容が変更されていることを示しています。
この時点では、まだMDに記録されていません。

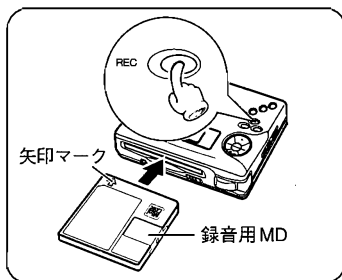
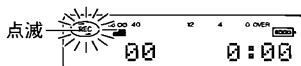
録音や、編集を終わって■キーで電源を切るとき、TOC EDIT！が表示され、自動的に記録されます。（電源が切れる前にGOOD BYE！と表示されます。）

- TOC が表示されているとき、または**TOC EDIT!**が表示されているときは電源を抜かないでください。録音や、編集した内容が消えたり、TOCが正しく記録されません。
TOC EDIT!が表示されているとき、本体に衝撃を与えないでください。TOCが正しく記録されないことがあります。
- TOC が表示されているときは、MDは取り出せません。■キーを押して、一度電源を切ってから取り出してください。

録音をするとき(基本編)

マニュアル録音をする

HOLD(ホールド)キーについて
- 本体と、リモコン、それぞれにHOLDキーが付いています。キーを操作するときは、HOLDスイッチを解除してから操作してください。ホールド状態の場合、キーの操作をしても動作しません。(54ページ)

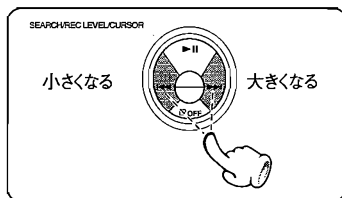
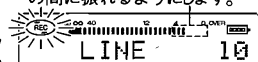
1 録音の待機状態にする

- 録音用MDを入れ、RECキーを押します。
- 録音待ちの状態になります。

- **CDからデジタル録音するときは、CDを一時停止状態にしてからMDを録音待機状態にします。**
- **音とび防止機能の付いたポータブルCDなどの時は、音とび防止機能を解除してください。**

2 録音レベルを調整する(アナログ入力のときのみ)

- 接続した機器(CDなど)を再生し、I◀◀ キーまたは ▶▶I キーで調整します。
- メーターが"0"以上に振れないようにしてください。レベルが大きすぎると音がひずみます。

最も大きなレベルで-4dB〜0dBの間に振れるようにします。

REC LINE 10

録音レベル表示

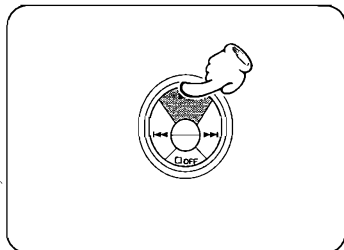
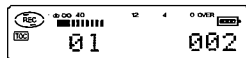
- デジタル接続ではもとの曲と同じレベルになります。

- 一度調整したレベルは電源を切っても記憶しています。
- レベル表示がMIC HからMIC Lなどに切り換わるとき一瞬音が途切れますが故障ではありません。

録音レベル表示の目安は---。
- CDから直接録音する。 ⇨LINE 00〜20
- 出力レベルの小さい機器から録音 ⇨LINE 21〜30
- 楽器演奏など大きな音のマイク録音 ⇨MIC L 00〜20
- 会議など小さな音のマイク録音 ⇨MIC H 21〜30

3 録音を開始する

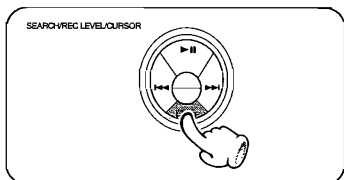
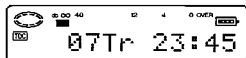
- 接続した機器を再生し、本機の ►II キーを押して録音を開始します。

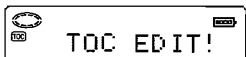
REC 01 002

■録音を一時停止するとき

- 録音中に ►II キーを押すと一時停止します。
- 録音を再開するときは、もう一度 ►II キーを押します。
- 一時停止すると曲番が1つ上がります。

4 録音を終了する

- ■キーを押すと、最後に録音した曲の頭で停止します。(すぐに再生すると最後に録音した曲を再生します。)

07Tr 23:45

5 電源を切る(TOCを記録する)

- 録音して停止した後、■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

TOC EDIT!

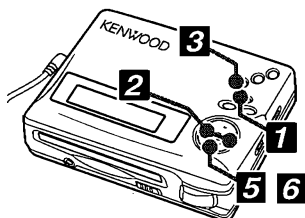
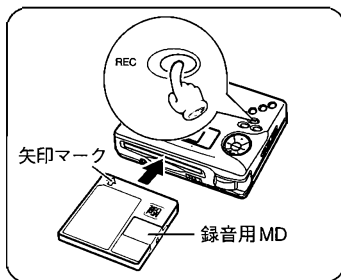
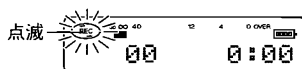
- MDを取り出すときは電源を切った後、**EJECT**レバーをスライドさせて取り出します。

- 録音しているときや、TOC EDIT! が表示されているときは、本体に衝撃を与えないでください。正しく録音できないことがあります。
- 次のようなときは、録音できません。
  - ·再生専用MD(市販の音楽ソフトなど)を録音しようとしているとき。
  - ·MDが誤消去防止状態になっているとき。(10ページ参照)

シンクロ録音をする

CDの録音をするときに、シンクロ録音をすると、CDをスタートさせると同時に、MDの録音をスタートさせることが出来ます。

- シンクロ録音は、接続した機器の再生信号を検知して、自動的に録音を開始したり、停止する機能です。

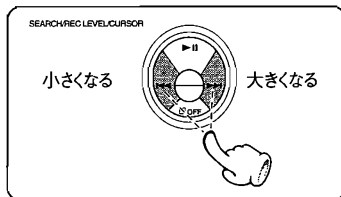
ご注意
- キーの操作をするときは、HOLDスイッチを解除してから操作してください。（54ページ）

1 録音の待機状態にする

- 録音用MDを入れ、RECキーを押します。
- 録音待ちの状態になります。

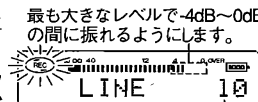
- **CDからデジタル録音するときは、CDを一時停止状態にしてからMDを録音待機状態にします。**
- **音とび防止機能の付いたポータブルCDなどの時は、音とび防止機能を解除してください。**

2 録音レベルを調整する（アナログ入力のときのみ）

- 接続した機器（CDなど）を再生し、I◀◀ キーまたは ▶▶I キーで調整します。
- メーターが“0”以上に振れないようにしてください。レベルが大きすぎると音がひずみます。

最も大きなレベルで-4dB～0dBの間に振れるようにします。

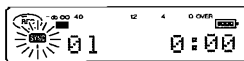
LINE 10

録音レベル表示

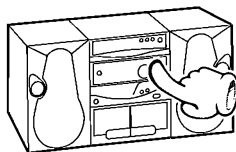
- デジタル接続ではもとの曲と同じレベルになります。

- 一度調整したレベルは電源を切っても記憶しています。
- レベル表示がMIC HからMIC Lなどに切り換わるとき一瞬音が途切れますが故障ではありません。

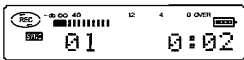
録音レベル表示の目安は---。

● CDから直接録音する。	⇨LINE 00～20
● 出力レベルの小さい機器から録音	⇨LINE 21～30
● 楽器演奏など大きな音のマイク録音	⇨MIC L 00～20
● 会議など小さな音のマイク録音	⇨MIC H 21～30

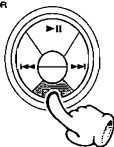
3 シンクロ録音の待機状態にする

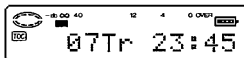
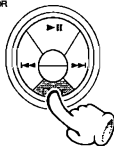
- ENTER/SYNCHR RECキーを押します。

- 再生信号によっては、正確な位置で録音開始、または停止しないことがあります。この場合は、マニュアル録音をしてください。

4 接続したCDを再生する

- CDを再生すると、自動的にMDの録音が開始されます。

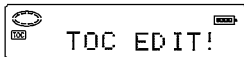
01　0:02

■シンクロ録音を一時停止するとき

- 録音中にCDを停止するとシンクロ録音の一時停止になります。
- 録音を再開するときは、もう一度CDを再生します。
- シンクロ録音をやめるときは本機の▶II キーを押します。(録音の待機状態になります。)
- 一時停止すると曲番が1つ増えます。

5 録音を終了する

- ■キーを押すと、最後に録音した曲の頭で停止します。(すぐに再生すると最後に録音した曲を再生します。)

07Tr　23:45

6 電源を切る(TOCを記録する)

- 録音して停止した後、■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

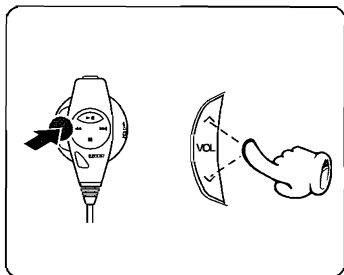
- MDを取り出すときは電源を切った後、EJECTレバーをスライドさせて取り出します。

録音(基本編)

録音の追加をするときは

未録音部分を探す必要はありません

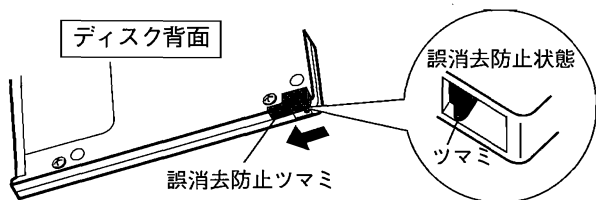
- 本機は自動的に未録音部分を探して録音します。26ページ **1** の録音待機状態にすると、前に録音した部分の後から、録音を開始します。（録音をやり直すときは33ページを参照してください。）

- 録音しているときや、TOC EDIT! が表示されているときは、本体に衝撃を与えないでください。正しく録音できないことがあります。
- 次のようなときは、録音できません。
  ・再生専用MD（市販の音楽ソフトなど）を録音しようとしているとき。
  ・MDが誤消去防止状態になっているとき。（10ページ参照）

録音している音（モニター音）を聞くには

- 録音中 ∩ 端子にヘッドホンや外部アンプなどを接続しておくと録音モニター音を聞くことができます。

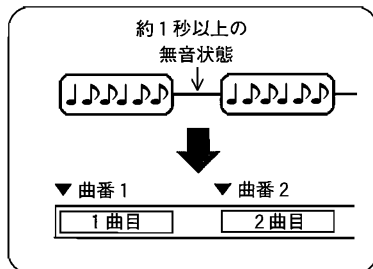
電池で使用するときは、音量レベルを“0”にして、モニター音を消しておくと電池の消耗が少なくなります。

■録音したMDを誤って消さないために

- 大切な録音は「誤消去防止ツマミ」をスライドさせて孔の開いた状態にしておいてください。（10ページ参照）

- 再び録音するときはツマミを、もとの状態に戻します。

オートマーカー機能（曲番が自動的につきます）

アナログ接続のとき

- 無音部分が約1秒以上続くと曲間とみなして、自動的に曲番がつきます。これをオートマーカー機能といいます。
- 曲番が付いていると曲の頭出しが瞬時にできます。
- オートマーカー機能を使わずに、ひとつづきの曲として録音することもできます。（35ページ参照）

デジタル接続のとき

- CDプレヤーなどからデジタル接続で録音した場合は、無音部分の長さに関係なく自動的に曲番が付きます。

アナログ接続ではオートマーカー機能は曲の無音部分を検出して機能します。そのため次のような場合は正確な位置に曲番がつかないことがあります。

- 拍手などで曲の間に無音部分がない場合。
- 曲間の雑音が大きい場合。
- クラシック音楽などで曲の途中で音が非常に小さくなる場合。

など。

CDから録音した場合もMDの曲番と一致しないことがあります。（56ページ参照）

⇨このようなときは、録音終了後編集機能を使って曲番を修正してください。（36～47ページ参照）

録音するとき(応用編)

基本的な録音方法の他にMD独特の色々な機能があります。これらの機能をマスターして、MD録音の楽しさを広げてください。

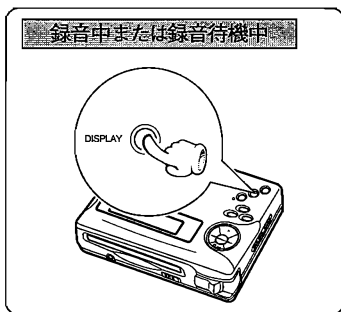
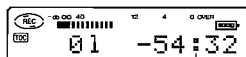
■録音に関する色々な機能

- ディスクの残り時間を確かめる。
- モノラル長時間録音をする。
- 録音をやり直す(すでに録音してあるディスクの途中から録音し直す)。
- 録音中に曲番を追加する。
- ひと続きの曲として録音する(曲番をつけずに録音する)。

■編集に関する色々な機能

⇨「編集機能」のページをご覧ください。→36

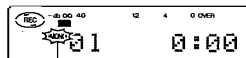
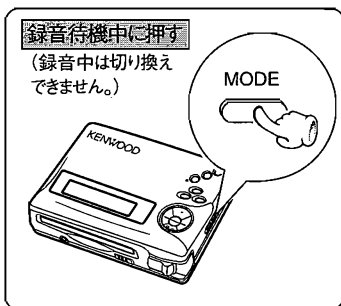
ディスクの残り時間を確かめる

録音中にあとどのくらい録音できるか確かめることができます。
(表示切り換え機能)

- ディスクの残り時間表示になります。

録音できる残り時間

- もう一度**DISPLAY**キーを押すと、もとの表示に戻ります。

- MDの規格上、ディスクの残り時間表示が実際の残り時間と異なることがあります。(56ページ参照)

モノラルで長時間録音をするには

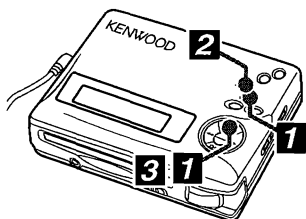
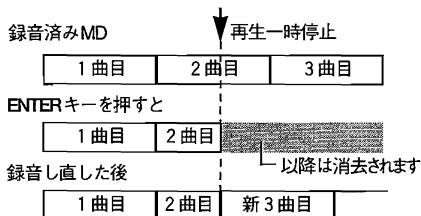
モノラル長時間モードで録音すると、ステレオで録音した場合の約2倍の時間を録音することができます。

MONO 点灯

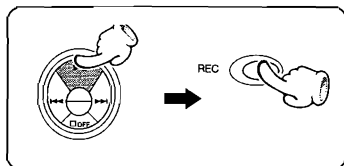
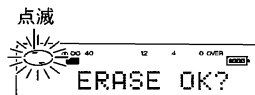
- 押すたびに、ステレオモードとモノラル長時間モードが切り換わります。
- モノラル長時間モードで録音が終わるとステレオモードに戻ります。

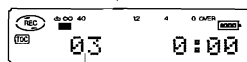
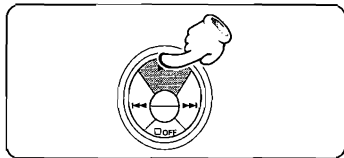
ご注意

- 入力がステレオのときは左右の音をミックスして、録音されます。この場合、録音中ヘッドホンから聞こえる音はステレオで聞こえます。
- モノラル長時間モードで録音したMDは、他のMDプレヤーでは再生できないことがあります。

録音をやり直す

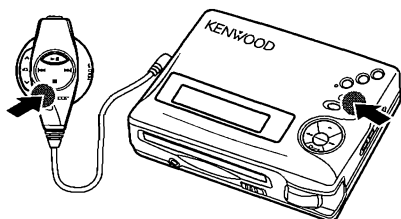
●録音やり直し操作をした場合

すでに録音してあるディスクの途中から、新たに録音することができます。
このとき、重ねられた曲以降の古い曲や曲名などはすべて消えます。

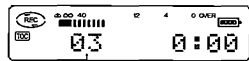
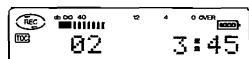
1 再生一時停止にして、RECキーを押す

●一時停止したところより消去されます。

●録音をやめるときは■キーを押します。

2 ENTER/REC SYNCHRO キーを押す

3 録音を開始する

● ►II キーを押すと録音が開始されます。

●消したくない曲があるときは、編集の「ムーブ機能」を使って、その曲を前に移動してから操作してください。（46ページ参照）
●すべての曲を消したい場合は編集の「オールイレース機能」を使って、消したあと操作してください。（44ページ参照）

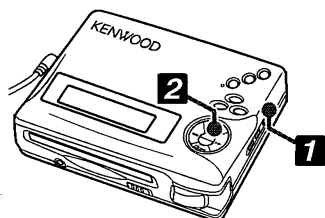
録音中に曲番を追加する

- 録音中に自分で好きなところで曲番をつけることができます。
- デジタル接続のときも、自分で曲番をつけることができます。

本体のRECキーまたは、リモコンのB.BOOSTキーを押す

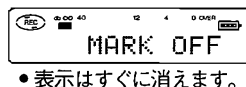
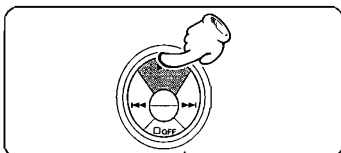
- 録音中に曲番をつけたいところで 本体のRECキーか、またはリモコンのB.BOOST キーを押します。
- 曲番が1つ増えて、録音が続きます。

曲番が1つ増えます。

- 誤って曲番をつけたときは、録音したあとで曲をつなぐことができます。（40ページ参照）

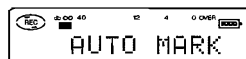
ひと続きの曲として録音する

- アナログ接続による録音で、オートマーク機能(31 ページ)を使わずに、ひと続きの曲として録音することができます。

1 EDIT/AUTO MARKキーを押す

- "MARK OFF" が表示されます。

- 表示はすぐに消えます。

2 録音を開始する

- 録音が始まります。

■曲番を自動的に付けるには(オートマーク機能に戻すとき)

- 録音一時停止にします(録音中の時は ►II キーを押す)。
- **EDIT/AUTO MARK** キーを押して、"AUTO MARK" を一時表示させてから録音を始めます。

- CD プレヤーなどからのデジタル接続による録音では、オートマーク機能の設定には関係なく、曲番は自動的につきます。

編集をする

MDにはCDと同じようなTOCという領域があり(9ページ参照)録音用MDでは、TOCを使って色々な編集をすることができます。(トックエディット機能)
再生専用MD(市販の音楽ソフトなど)では、編集することはできません。

こんな編集ができます

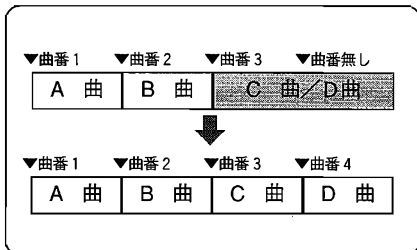
デバイド
■ 曲を分ける(DIVIDE機能)

機　能

- 1つの曲を途中で分けたり、曲番のない曲に曲番を追加したり、することができます。

用　途

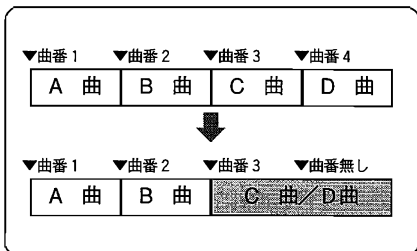
- 曲の途中や、会議の録音など好きな所で、頭出しをしたいとき。
- ライブ録音などで曲と曲の間に曲番が付かなかったときなど。

▼曲番1　▼曲番2　▼曲番3　▼曲番無し
A 曲 | B 曲 | C 曲／D曲
▼曲番1　▼曲番2　▼曲番3　▼曲番4
A 曲 | B 曲 | C 曲 | D 曲

コンバイン
■ 曲をつなぐ(COMBINE機能)

機　能

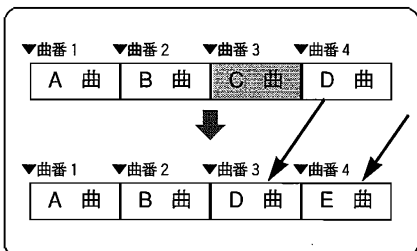
- 連続する2つの曲を1つにまとめたり、1つの曲に曲番が2つ付いてしまった場合の修正などができます。

用　途

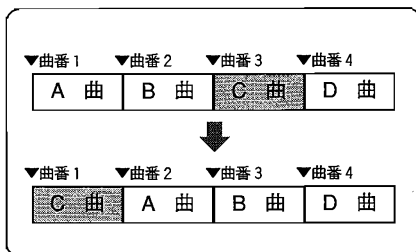
- クラシック音楽の録音などで、曲の途中で非常に小さい音の部分があって、曲番が付いてしまったときなどの修正に。

イレース
■ 曲を消す(ERASE機能)

機　能

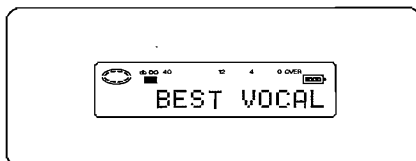
- 消したい曲を1曲ずつ、または全曲一度に消すことができます。

- 一度消すともとに戻りませんので良く確かめてから消去してください。

曲を移動する（MOVE機能）

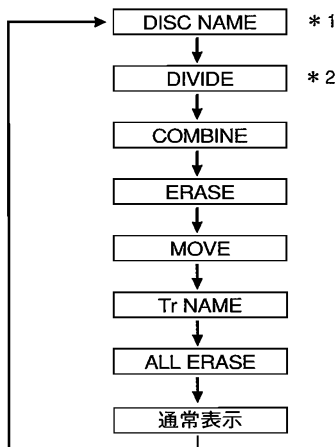
機　能

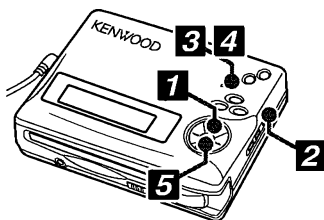
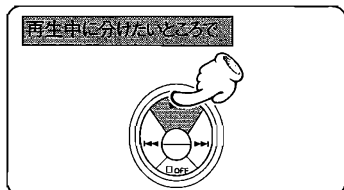
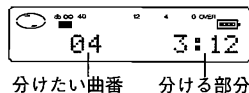
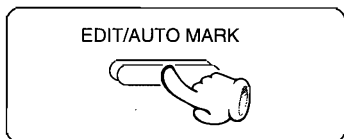
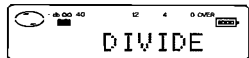
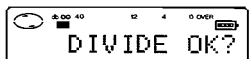
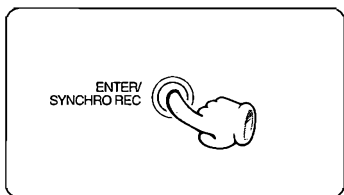
- 録音した曲の順序を変えることができます。
- ディスクに順番を記録するため、電源を切っても順番が戻ることはありません。

曲名やディスク名をつける（Tr NAME／DISC NAME機能）

機　能

- 録音した曲や、ディスクにそれぞれタイトルを付けることができます。
- カタカナと、アルファベットの大文字、小文字、記号を使うことができます。
- 曲名は1曲あたり、またディスク名は1枚あたり最大100文字まで、付けることができます。

編集機能の切り換え

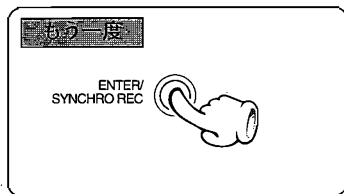
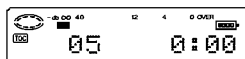
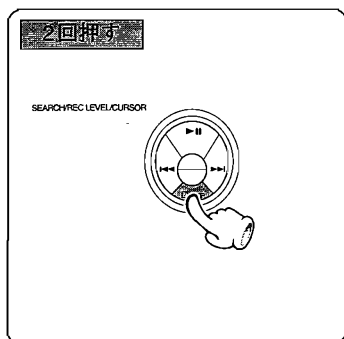
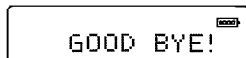
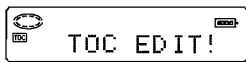
- **EDIT** ボタンを押すたびに右図のように表示が変わります。

＊1：ディスクネーム機能は停止中のときだけ選べます。
＊2：デバイド機能は一時停止中のときだけ選べます。

曲を分ける（DIVIDE機能）

1つの曲を、好きなところで2つに分けることができます。

1 一時停止にする

- 分けたいところで►II キーを押します。

2 DIVIDEを選ぶ

- "DIVIDE" が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

3 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 分けても良いかどうかの確認が表示されます。

- 操作を取り消したいときは、■キーを押してください。

編集

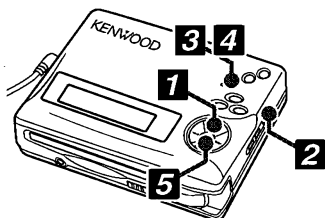
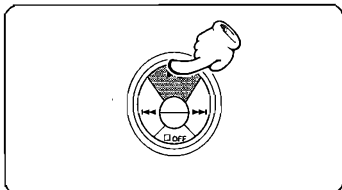
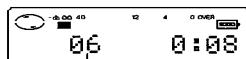
4 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 曲が分けられて、うしろの曲の頭で一時停止します。
- 分けた曲以降の曲番は1つずつ下がります。
- 曲名が付いていたときは、分けた両方の曲に同じ曲名が付きます。

5 電源を切る(TOCを記録する)

- 編集を終わるときは、■キーを2回押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

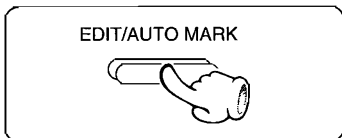
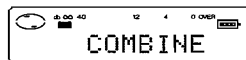
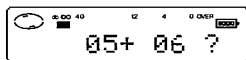
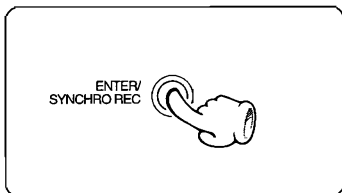
- 本機は最大255曲まで曲を分けることができますが、曲数が最大に満たなくても、曲を分けることができなくなることがあります。(56ページ参照)
- また、曲名などを記録する領域がいっぱいの時は、後ろの曲名が付かないことがあります。(56ページ参照)

TOC書き込み中は電源を抜いたり、衝撃を与えないでください

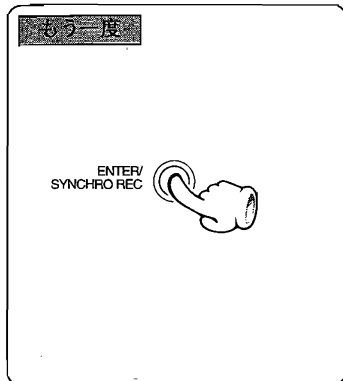
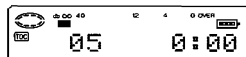
- 編集中にTOC EDIT!表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。
  曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

曲をつなぐ(COMBINE機能)

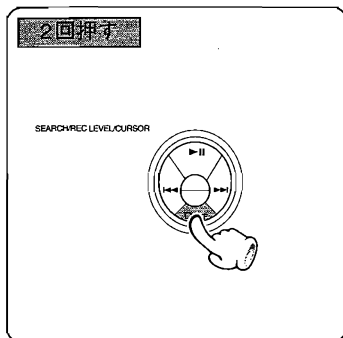
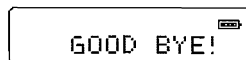
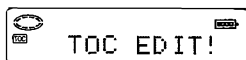
連続した2つの曲を、1つの曲にまとめることができます。

1 一時停止にする

• 連続した2つの曲の後ろの曲を再生して ►II キーを押し、一時停止にします。

5曲目と6曲目をつなぐとき

2 COMBINEを選ぶ

• "COMBINE"が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

3 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

• つないでも良いかどうかの確認が表示されます。

• 操作を取り消したいときは、■キーを押してください。

4 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 曲がつながり、つながった曲の頭で一時停止します。
- つないだ曲以降の曲番は1つずつ上がります。
- 曲名が付いていたときは、前の曲の曲名になります。前の曲に曲名が付いていなかったときは、うしろの曲名が付きます。

■離れた2つの曲をつなぐときは

MOVE（ムーブ）機能で2つの曲を連続させた後、COMBINE機能でつなぎます。（46ページ参照）

5 電源を切る（TOCを記録する）

- 編集を終わるときは、2回■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

次の場合は曲をつなぐことができません。
- モノラル長時間モードで録音した曲と、ステレオ録音した曲。
- デジタル接続で録音した曲と、アナログ接続で録音した曲。
- 12秒以下の短い曲はつながらないことがあります。

TOC書き込み中は電源を抜いたり、衝撃を与えないでください

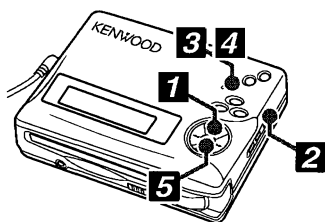
- 編集中にTOC EDIT!表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。
曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

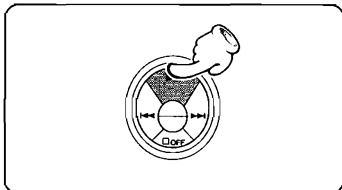
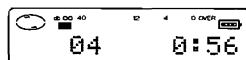
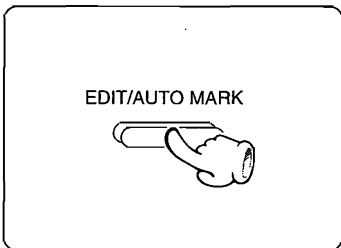
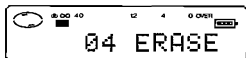
編集

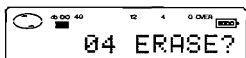
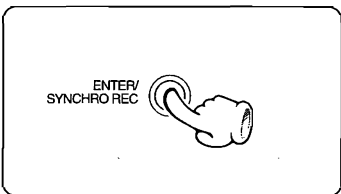
1曲ずつ曲を消す（ERASE機能）

（ERASE のルビ：イレース）

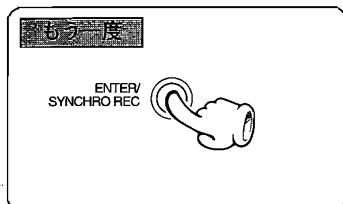
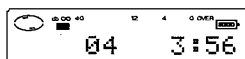
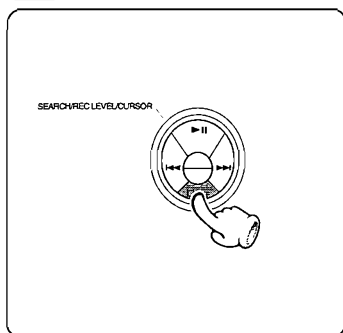
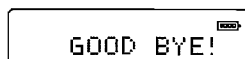
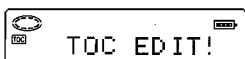
曲を1曲ずつ消すときの操作です。

- すべての曲を消すときはALL ERASE（オールイレース）（44ページ参照）の操作をします。

消した曲はもとに戻りません。よく確かめて操作をしてください。

1 一時停止にする

- 消したい曲を再生中に►II キーを押し、一時停止にします。

2 ERASEを選ぶ

- "ERASE"が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

停止中に**ERASE**を選んだときは、I◄◄キー、►►Iキーで、消す曲番を選ぶことができます。

3 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 消しても良いかどうかの確認が表示されます。

- 操作を取り消したいときは、■キーを押してください。

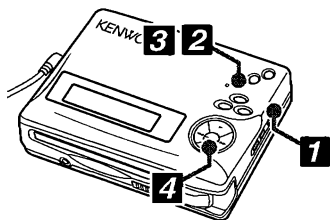
4 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 曲が消え、次の曲の頭で停止します。
- 続けて他の曲を消すときは、1 ～ 4 の操作をくり返します。
- 消した曲以降の曲番は1つずつ上がります。

5 電源を切る（TOCを記録する）

- 編集を終わるときは、■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

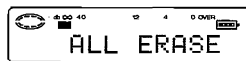
TOC書き込み中は電源を抜いたり、衝撃を与えないでください

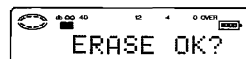
- 編集中にTOC EDIT!表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。
  曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

すべての曲を消す（ALL ERASE機能）

MD内の曲をすべて消すときの操作です。
（ディスク名、曲名もすべて消えます。）

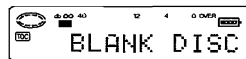
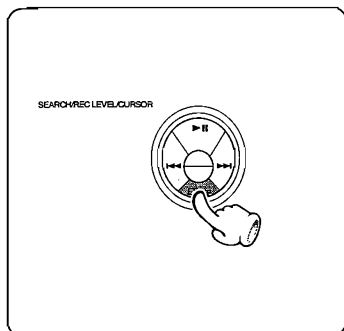
- 1曲ずつ消すときはERASE（イレース）（42ページ参照）の操作をします。

1 EDIT/AUTO MARKキーを押し続ける

- **EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押して、“ALL ERASE”を表示させます。

EDIT/AUTO MARKキーを2秒以上押し続けて、“ALL ERASE”を選ぶこともできます。

2 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 消しても良いかどうかの確認が表示されます。

- 操作を取り消したいときは、■キーを押してください。

3 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

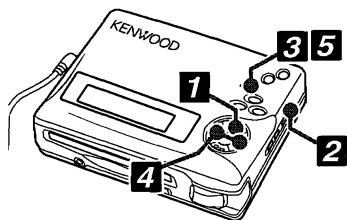
- すべての曲が消されます。

4 電源を切る(TOCを記録する)

● ■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

TOC書き込み中は電源を抜いたり、衝撃を与えないでください

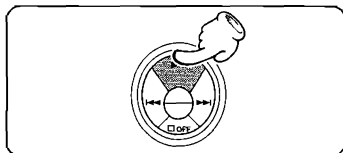
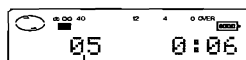
● 編集中に **TOC EDIT!** 表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。
曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

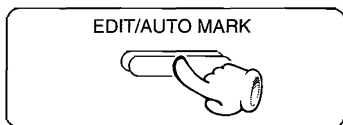
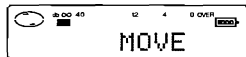
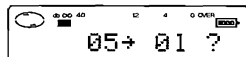
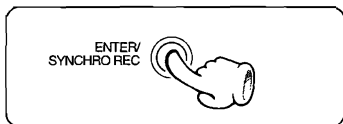
曲を移動する（MOVE機能）

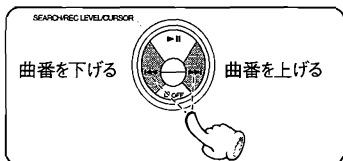
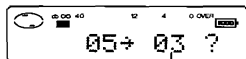
（ムーブ）

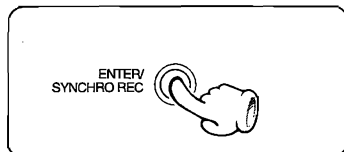
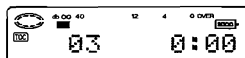
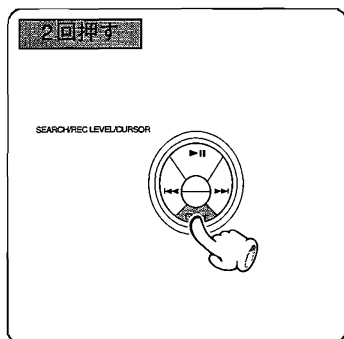
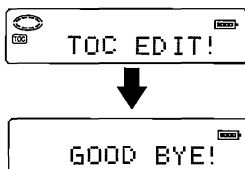
指定した曲を、希望の位置に移動することができます。

1 一時停止にする

- 移動したい曲を再生して ►II キーを押し、一時停止にします。

05 0:06

5曲目を移動するとき

2 MOVE を選ぶ

- "MOVE" が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

3 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 操作を取り消したいときは、■キーを押してください。

4 移動先を選ぶ

- I◄◄ キーまたは ►►I キーで移動先の曲番を選びます。

3曲目に移動するとき

5 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 曲が移動して、曲の頭で一時停止します。

6 電源を切る(TOCを記録する)

- 編集を終わるときは、2回■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

曲番を移動させると

- 移動した曲以降の曲番は、自動的に新しい曲番になります。

TOC書き込み中は電源を抜いたり、衝撃を与えないでください

- 編集中に **TOC EDIT!** 表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。
曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

編集をする

MDに名前をつけたり、1曲ごとの名前を付けたりすることができます。

- MDに付ける名前は最大100文字まで。
- 1つの曲名にも最大100文字まで付けることができます。

(1枚のMDにディスク名と曲名を合わせて約1700文字まで入れられます。)

文字の選択のしかた

文字入力の操作をする前に、文字を選ぶ方法を理解しておきましょう。
①文字の種類を選ぶときはCHARACTERキーを使います。
②個々の文字を選ぶときはVOLUME/NAMEキーで選びます。

CHARACTERキーで選ぶ	VOLUME/NAMEキーで選ぶ
カタカナ	(スペース) アイウ……………ワヲン゛゜ー →(スペース)へ戻る
↓ アルファベット/数字	(スペース) ABC…………XYZ012……89 →(スペース)へ戻る
↓ 記号 (→カタカナへ戻る)	(スペース) ! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ _ ' →(スペース)へ戻る (左の記号が使えます)

スペース(空白)を入れるときは

- VOLUME/NAMEキーでスペースを選ぶか、またはMODEキーを押すとスペースが1つ入ります。

小文字に換えるとき

- 小文字に変換するときはDISPLAYキーを押して切り換えます。

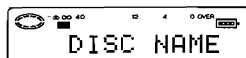
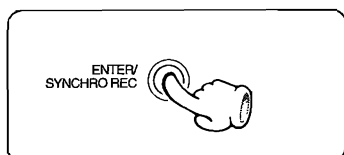
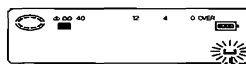
"ガ"や"パ"を入れるときは

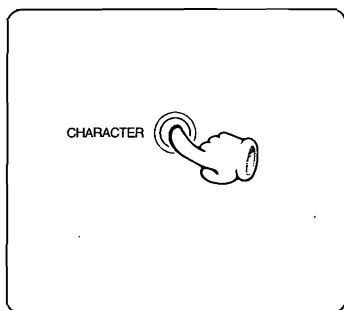
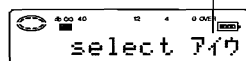
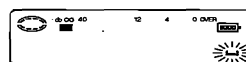
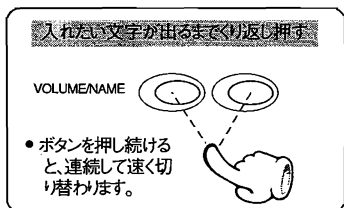
- 濁音(ガ)や半濁音(パ)を入れるときは、「カ」や「ハ」を1文字として入力した後、「゛」や「゜」を1文字分として入力します。

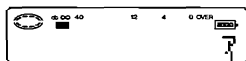
ディスク名をつけるには（DISC NAME機能）

ディスクネーム

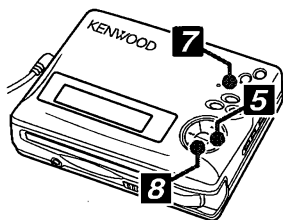
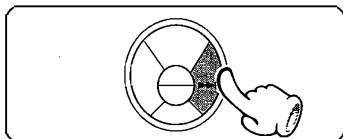
1 DISC NAMEを選ぶ

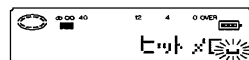
- 停止中に“DISC NAME”が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

2 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 文字入力状態になります。
- 操作を取り消すときは、■キーを押してください。

- カーソル（␣表示）が点滅します。

3 文字種類を選ぶ

- **CHARACTER**キーを押すたびに文字の種類が［アイウ］［ABC］［!"#］の順に変わります。
- 選んだ種類の3文字が1秒間表示された後カーソル表示に変わります。

4 入れたい文字を選ぶ

- ボタンを押し続けると、連続して速く切り替わります。

ア
押すたびに換わります

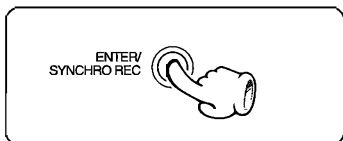
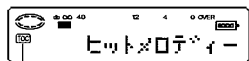
- 小文字で入れたいときも始めは大文字で選び、その後DISPLAYキーで切り換えます。

編集

5 選んだ文字を入力する

- 入れたい文字を選んだら ▶▶I キーを押します。
- 文字がカーソルの左へ移動します。

次に文字の入る位置

6 続けて文字を入力する

手順 3 ～ 5 をくり返す。

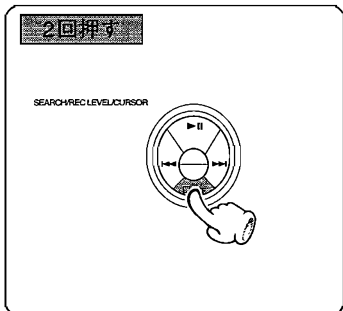
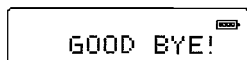
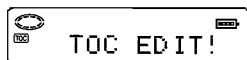
同じ種類の文字を入力するときは 3 の操作は必要ありません。

7 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- ディスク名が登録されます。

点灯

8 電源を切る（TOCを記録する）

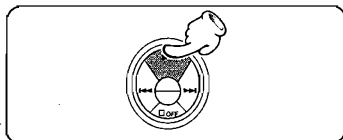
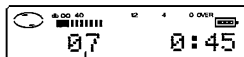
- 編集を終わるときは、2回■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

編集

曲名をつけるには（トラックネーム Tr NAME）

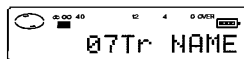
1 一時停止にする

● 曲名を付けたい曲を再生中に ▶II キーを押し、一時停止にします。

07　0:45

曲名を付けたい曲番

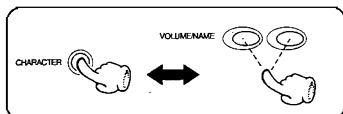
2 Tr NAME を選ぶ

● "Tr NAME" が表示されるまでEDIT/AUTO MARK キーをくり返し押します。

07Tr NAME

● 停止中に選んだときは、I◀◀ 、▶▶I キーで曲番を選ぶことができます。

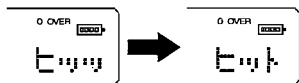
3 ENTER/SYNCHRO REC キーを押す

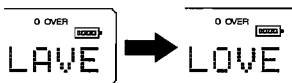
● 文字入力状態になります。操作を取り消すときは、■キーを押してください。

4 文字を入力する

■ 49～50ページの手順 3 ～ 7 で文字を入力します。

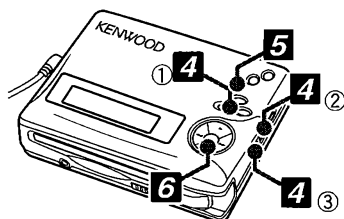
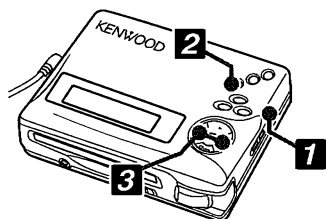
入力途中で文字を間違ったときは

■ 文字を消すときは

● I◀◀ キーまたは ▶▶I キーを押し、カーソルを消したい文字の上に移動したあと、**B.BOOST** キーを押します。

■ 文字を直すとき

● I◀◀ キーまたは ▶▶I キーを押し、カーソルを消したい文字の上に移動したあと、正しい文字を入れます。

ご注意　本機でカタカナを入力したMDは、他の機器では正常に表示されないことがあります。また、他の機器でカタカナを入力したMDは、本機では正常に表示されないことがあります。

編集

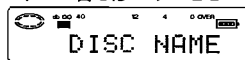
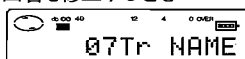
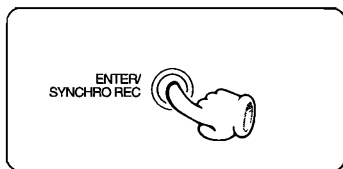
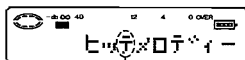
曲名やディスク名を修正するには

1 DISC NAME またはTr NAME を選ぶ

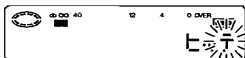
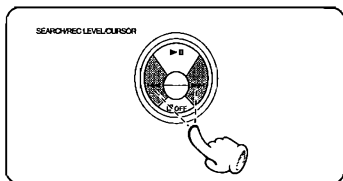
- "DISC NAME" または "TRACK NAME" が表示されるまで**EDIT/AUTO MARK**キーをくり返し押します。

ディスク名を修正するとき

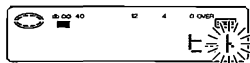
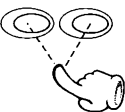
DISC NAME

曲名を修正するとき

07Tr NAME

2 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

- 文字修正ができるようになります。

修正したい文字

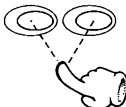
3 修正したい文字をカーソルの上に重ねる

- 文字を追加するときは、追加したい位置の右の文字にカーソル（ ⌴ 表示）を重ねます。

4 入れたい文字を選ぶ

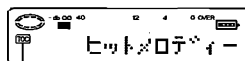
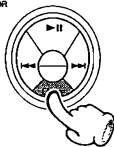
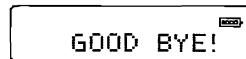
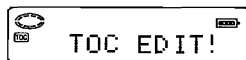
①変更するときは
- VOLUME/NAMEキーで入れたい文字を選ぶ

②追加するときは

❶MODEキーを押す。

- スペースが入ります。

❷追加したい文字を入れる。

③削除するときは
- B.BOOSTキーを押す。

- カーソル上の文字が削除されます。

5 ENTER/SYNCHRO RECキーを押す

6 電源を切る(TOCを記録する)

- 編集を終わるときは、2回■キーを押すと、自動的にTOCを記録して電源が切れます。

- 電源を切る前に、続けて別の編集をすることもできます。

- 編集中に"TOC EDIT!" 表示が出ているときは、電源を抜いたり、衝撃を与えたりしないでください。曲番などの情報がディスクに正しく書き込まれないことがあります。

編集

"ピッ"という操作音を消す

キー操作をするときに“ピッ”と鳴る操作音を消すことができます。

操作音を消すには

再生中または停止中に

2秒以上押す B.BOOST

- “BEEP OFF”が表示されるまで2秒以上押し続けます。
- “ピッピッ”と鳴ったあと操作キーを押しても音が鳴らなくなります。

再び操作音を鳴らすには

再生中または停止中に

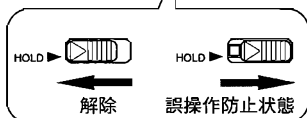
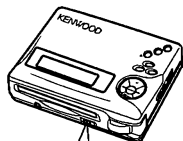
2秒以上押す B.BOOST

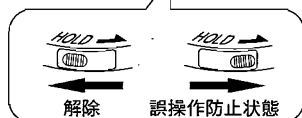
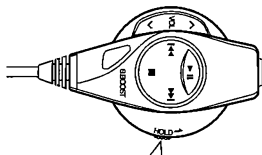
- “BEEP ON” が表示されるまで2秒以上押し続けます。
- “ピッ”と鳴ったあと操作キーを押すと音が出るようになります。

- 操作音の設定(BEEP ON / BEEP OFF)は、電源を切っても記憶しています。
- リモコンのB.BOOSTキーでも同じように操作できます。

誤操作を防ぐために

- 電車の中で聞くときなど、誤ってボタンが押されても本体が動作しないようにすることができます。(ホールド機能)
- 電源を切って持ち歩く時などもホールド状態にしておくと、誤って電源が入ることがなく、電池の消耗を防げます。

本体の操作キーをホールドするには

- 本体で操作をするときは、本体のHOLDスイッチを解除します。

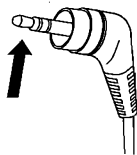
リモコンの操作キーをホールドするには

- リモコンで操作をするときは、リモコンのHOLDスイッチを解除します。

簡単なお手入れ

汚れたときは

- 乾いた柔らかい布でふいてください。
  汚れがひどいときは、布に少し水を含ませてふいてください。そのあと必ず乾いた布でからぶきしてください。

プラグなどのお手入れ

- ヘッドホンなどのプラグは常にきれいにしておいてください。汚れがつくと雑音がでたり、リモコンが動作しなくなることがあります。
- 充電池の電極が汚れたときは掃除をしてください。

- ベンジン、シンナーなどの薬品類は使わないでください。変質、変色のおそれがあります。
- 油をささないでください。故障の原因になります。

露付き現象について

・次のような場合には、内部に露がつくことがあります。露付きがおこるとディスクの信号が読み取れず、正常に動作しないことがあります。
・露が付いたときはディスクを取りだしてください。約1時間で露がとれ、正常な動作をするようになります。

（露の付きやすい状況は）
・ストーブをつけた直後。
・冷えた場所から急に暖かい場所に移されたとき。
・湯気や湿気が立ち込めている部屋に置いてあるとき。

録音中に停電すると

録音中に停電するとTOC（トック）情報が書き込まれないため、そのとき録音した内容は消えてしまいます。
すでにTOC情報が書き込まれているMDに追加して録音した場合は、追加した部分の記録が消えてしまいます。

ACアダプターで録音する場合でも、充電済みの充電池をセットしておくと、万一停電があっても、自動的に充電池に切り換わり、大切な録音が消えてしまうことを防ぐことができます。

MDの規格上の制約について

MDは従来のカセットテープとは異なる方法で録音されます。そのため、録音方式や編集のしかたによって、次のような症状がでることがあります。
これらは、システム上の制約によるものであり、故障ではありません。

症　状	原　因
● MDの最大録音時間に満たなくても "DISC FULL" または "TOC FULL"が表示されることがある。	● 録音時間に関係なく、曲数が最大になると録音できなくなります。 （最大曲数；254曲）
● 曲数や録音時間が最大曲数に満たなくても、"DISC FULL" が表示されることがある。	● MDにキズなどがあると、その部分は自動的に録音不可となるため録音時間が少なくなります。
● 短い曲を何曲消しても録音の残り時間が増えないことがある。	● MDの残り時間を表示するとき、8秒以下の短い曲などは曲として数えられないことがあります。
● 編集で曲と曲とをつなげないことがある。	● 録音、編集を何回も繰り返して行ったMDではCOMBINE 機能が使えないことがあります。
● ディスクに録音した時間と残り時間の合計が最大録音時間と一致しないことがある。	● 通常は1クラスタ（MDの区分けのことで、約2秒）を録音の最小単位としていますが、これに満たない曲でも約2秒のスペースを使います。このため、表示された残り時間よりも実際に録音できる時間が少なくなることがありなす。 　また、MDに傷などがあると、その部分は自動的に録音不可となるため録音時間が少なくなります。
● 録音された曲を早送り/早戻しすると、音がとぎれることがある。	● 録音、再生を何回も繰り返して行ったMDは、早送り/早戻し中に音がとぎれることがあります。
● 曲の途中で曲番がつくことがある。	● 録音するMDにゴミやキズなどがあると、曲番が繰り上がることがあります。

こんな表示が出たときは　次のようにしてください

表　示	意　味	処理方法
NO DISC	● MDが入っていない	● MDを入れる
DISC ERROR	● ディスクにキズが付いている	● もう一度入れ直すかMDを取り替える
BLANK DISC	● 何も記録されていない	● 再生のときは、録音されたMDを入れる
00Tr 0:00	● 音楽が録音されていない	
? DISC	● 音楽以外（データなど）が入ったMDを再生した	● データ等の入ったMDは再生できません
	● 記録した信号にに異常がある	● 他の録音用MDと取り換える
TOC ERROR ※ （※は数字や記号）	● MDに大きなキズがある	
U TOC ERROR	● MDに大きなキズがある ● 記録した信号に異常がある	● 他の録音用MDと取り換える ● オールイレースをし、録音をやり直す。
DISC FULL	● MD上に録音できる空きがない	● 他の録音用MDと取り換える
PB DISC	● 再生専用MDに録音しようとした	● 録音用MDを使う
PROTECTED	● MDが誤消去防止状態になっている	● MDの誤消去防止ツマミをもとに戻す
TOC FULL	● 文字情報（曲名や、ディスク名など）を記録する空きがない	● 他の録音用MDと取り換える
Can't REC	● ディスクのキズや、振動などで正しく録音できなかった	● 録音をやり直す ● 他の録音用MDを使う
Din UNLOCK	● デジタルケーブルの接続不良 ● サンプリング周波数が44.1kHz以外	● ケーブルを正しく接続する ● アナログ入力で録音する
Can't COPY	● SCMS（11ページ）によりコピーできない	● アナログ接続で録音する
Can't EDIT	● 編集できない	● 曲の停止位置を変えて編集してみる

表　示	意　味	処理方法
HOLD	● 本体が誤操作防止状態になっている	● 誤操作防止を解除する
BATT EMPTY	● 充電池の残量がなくなった	● 充電する ● ACアダプターを使う
LOCKED LOCK ERROR	● 録音中または編集中にEJECTツマミを動かそうとした	● 電源を切ってからMDを取り出す
SORRY	● 曲番を検索中または書き込み中のため操作できない	● 少し待って操作する
DEFECT	● MDにキズがあるため録音が途切れた	● 再生した音が異常であれば録音し直す ● 他の録音用MDと取り替える
POWER ?	● 専用以外の電源を使用した	● 専用の電源を使用する
Tr Protect	● 曲が消去防止になっている	● 曲を録音した機器で編集する
SYSTEM ERR	● 自己判断により故障を判断した	● お買い上げの販売店に修理をお申し付けください。
TEMP OVER	● 温度が高くなりすぎた	● 電源を切ってしばらく休ませる

動作の異常がおきたときは

本機を使用中に、衝撃、過大な静電気、または落雷による電源電圧の異常などの影響を受けた場合や、誤った操作をした場合などに、操作を受け付けなくなるなどの異常が発生することがあります。
このようなときは、次のようにしてください。

①ACアダプターをコンセントから外す。
②充電池を外す
③約30秒そのままにしておく。
④ACアダプターをコンセントにつないで操作する。

故障とお考えになる前に

次のような場合は、故障とお考えになりがちですが、ほかに原因があることがあります。修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない	● ACアダプターがはずれている ● 充電池が消耗している ● 誤操作防止状態になっている	● ACアダプターをつなぐ(P14) ● 充電池を充電する(P14) ● 誤操作防止を解除する(P54)
音が聞こえない	● 音量が最小になっている ● ヘッドホンがはずれている	● 音量を上げる(P17) ● しっかり差し込む(P16)
ボタンを押しても操作ができない	● 誤操作防止状態になっている ● 充電池が消耗している ● リモコンがしっかり差し込まれていない	● 誤操作防止を解除する(P54) ● 充電池を充電する(P14) ● しっかり差し込む(P16)
音がとぎれる	● 充電池が消耗している ● 振動が多いところに置いている	● 充電池を充電する(P14) ● 振動の少ない場所に置く
MDが取り出せない	● TOC情報の書き込み中 ● 録音中、または編集中である	● 電源が切れるのを待つ(P25) ● 録音や編集を終了し電源を切る
録音や編集ができない	● 誤操作防止状態になっている ● 他の機器と正しく接続されていない ● 録音中または編集中にACアダプターが外れたり、停電になった ● MDが誤消去防止状態になっている。	● 誤操作防止を解除する(P54) ● 正しく接続をする(P24) ● 録音し直す ● 誤消去防止を解除する(P10)
充電しない	● 本機が充電池の状態を調べるため、充電開始まで最長2分程度かかる。 ● あまり使っていない充電池を充電した。	● 2分程度待ってみる (P14) ● 充電池を入れたあと、MDを数秒間再生し、本体の電源をきる。

アフターサービスについて

1.**保証書ー**この商品の保証書は、別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

2.**保証期間**ーお買い上げの日より**1年間**です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には、保証書の記載内容によりお買上げの販売店またはケンウッドの営業所が無料修理いたします。(なお落下による破損、故障など、および乾電池、充電池などの消耗品は、保証期間内でも有料となります。)

3.**保証期間経過後の修理**については、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により**有料修理**いたします。

4.**補修用性能部品の最低保有期間**は製造打ち切り後**6年間**です。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

5.アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドの営業所に、ご遠慮なくご相談ください。
This warranty will only be honored in Japan.

サービス依頼について

本機のサービスを依頼されるときは、製品保護のため、必ず何かに包んでお渡しください。
※包装材は、アフターサービスや引っ越しの際に、大切な機器を保護するためにご利用ください。

定　格

型式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
読み取り方式	非接触光学式読み取り方式（半導体レーザー）
回転数	約 400～900 rpm
サンプリング周波数	44.1 kHz
音声圧縮方式	ATRAC方式
チャンネル数	ステレオ：2チャンネル モノラル長時間モード：1チャンネル
録音方式	磁気変調オーバーライト方式
A/D，D/A 変換	1 bit 方式
周波数特性	20 ～ 20,000 Hz（±3dB）
ワウ・フラッター	測定限界（±0.001％W.PEAK）以下
入力端子	ライン/光入力兼用×1、マイク×1（プラグインパワー方式）
出力端子	ヘッドホン端子
入力感度　MIC　H	0.2 mV / 4 kΩ
MIC　L	2.0 mV / 4 kΩ
LINE	75 mV / 10 kΩ
出力レベル　ヘッドホン	10 mW＋10 mW（最大出力レベル/ 16 Ω）
LINE	500 mV（－12dB時、規定出力/50 KΩ）
電　源	DC 5V　：ACアダプター（100V AC 50/60 Hz） DC 3.6V：リチュウムイオン充電池×1 DC 5V　：カー電源アダプター（別売品 DC-C60） DC 4.5V：乾電池ケース （別売品BC-F5、アルカリ単3乾電池×6）

電池使用持続時間
（完全充電時）

使用する電池	連続再生時間	連続録音時間
充電池のみ	約 4.5 時間	約 3.5 時間
充電池＋アルカリ乾電池	約 16 時間	約 12 時間

（連続録音時間；アナログ入力、録音モニター音量 "0" 時）
（連続再生時間；音量レベル "VOL 20" 時）
- 周囲温度20℃にて充電/連続使用したときの標準値です。
- 乾電池のメーカーや種類、使用環境、温度によって、使用時間は異なります。

外形寸法	109.2（幅）× 30.5（高さ）× 81.3（奥行き）mm
重量	約 275 g（充電池を含む）

これらの定格およびデザインは、改善のため、予告なく変更することがあります。

商品に関するお問い合わせは
お客様相談室　東京：電話 (03)3477-5335（受付時間：AM9:30～PM5:30）
大阪：電話 (06) 357-5335（受付時間：AM9:45～PM6:00）

アフターサービスのお問い合わせは
お買い上げの販売店、またはケンウッドサービスステーション、営業所にご連絡ください。（別紙 "全国サービス網" をご参照ください。）

KENWOOD
株式会社ケンウッド
東京都渋谷区道玄坂1-14-6　〒150